

思えば、またしてもドジしたものである。70代も半ばを過ぎると思わぬ事故を惹起するようだ。黒目を傷つけなかったのは幸いというべきだ。最悪の場合、失明したかもしれぬ。

#### 1 レジャー農園で右目を突き、出血

雨も止んだようなので、畑に出かけて草取りを始めた。ナスの根元にある伸びた草を取ろうとして腰屈みになった途端、右目に何かが突き刺さったような衝撃。緑色の支柱棒の先端部分が眼鏡と目の隙間から目に当たったのだ。時刻は11時少し前か。W氏が目から出血しているというので確認したところ、その通りであった。出血自体は、大したことはなかったが、目が痛い。病院に行こうと決心し、家内に電話して開いている眼科を探すように依頼して帰宅した。

#### 2 救急車を依頼

病院を探すも、休日でもあり何処も開いておらず、119番して適当な病院に搬送して貰うこととした。救急車はすぐに到着した。

#### 3 搬送先調整に2時間を要す

休日であり、しかも眼科でもあるということで、受け入れ病院探しに救急隊員が汗だくの調整をした。近隣にはなく、結局千駄木の救急救命センターまで搬送することとなった。

小生の場合命に別状はないので、2時間でも問題は発生しないが、緊急を要する場合にはこの調整時間の長さは問題だ。救急隊員の苦労が察せられる。彼等は小生の視力の変化、発熱やその他の特異症状の有無等々細かい点を確認し、気配りしてくれる。安心して任せられる。

1時間の救急搬送により病院に到着した。搬送間に眠っていたと家内は言うが…

#### 4 検査、診察

若くて優しい眼科医が担当だ。視力検査特段の変化なし。目を洗浄し、検査したところ、「結膜裂傷」との診断名。黒目ではなく白目部分(眼瞼部)でもあり、畑での事故でもあり、縫合は見合わせて、取りあえず抗生物質入りの点眼液を処方された。翌日に近隣の眼科を受診して必要であれば縫合等をするように指示されて、放免された。

都内で食事して帰宅。

#### 5 帰宅後の現状

未だに少々の鈍痛がある他、眼内が赤くなっている。

#### 6 眼科受診、結膜縫合手術(X+1日)



検査の結果、縫合手術をすることとなった。眼の手術は怖い。顔を動かすな、目は〇〇方向を見てと指示される。眼前を針が過る。医師が糸が切れたとか〇〇の代用で△△をと言うのがよく聞こえる。嫌なものだ。

ともあれ、無事に終了大きな眼帯、写真の如し。

眼帯した状態での自転車、少々不便だが、特段の問題なし。X+2日眼帯を外したが、ゴーグルを勧められた。一週間後に抜糸予定。

#### 7 反省事項 支柱棒は高いもので視認容易性追求、細心の注意 (了)